

## 道具鍛冶の最高峰・千代鶴是秀の傑作が一堂に集まる、 本邦初の展覧会です

詩情豊かな意匠と精緻な機能性をそなえた作品群をつくりだし、「不世出の名工」と呼ばれる千代鶴是秀。「まあよくも鉄と暮らした七十年」と晩年に詠んだ、鍛冶一筋の生涯はいかなるものであったのでしょうか。本展覧会では、史上初公開となる千代鶴是秀の最高傑作、突ノミ「天爵」をはじめ、全国の道具所蔵者から集められた作品約60点を一堂に展示します。

刀匠・石堂寿永を師とした修業時代から、後継である長男・千代鶴太郎の失踪など苦難の時期を経て、戦後に開花する是秀の生涯を、各時代を代表する作品や詠んだ句などゆかりの資料とともに辿ります。さらに、是秀が天才的兄弟鍛冶と敬愛した国弘と義廣、師である石堂寿永、人気を二分したライバル・石堂秀一、長男・太郎や後を継ぐ鍛冶たちの作品群も対比的に紹介し、是秀の作風を重層的に解説。

彫刻家・朝倉文夫の道具、水上勉『櫻守』のモデルとして知られる桜博士・笹部新太郎の接木小刀など、多彩な文化人との交流にもスポットをあて、至高の道具をうみだした名工の世界に迫ります。



㊦ 千代鶴是秀 (撮影：藤原正)

本名、加藤廣。明治7年生まれ。父は米沢藩上杉家に仕えた刀匠・二代目長運齋綱俊。明治9年の廃刀令で刀鍛冶から道具鍛冶へ転向した叔父八代目石堂運寿一（寿永）に11歳で入門。先人の技を丹念に研究し、名門刀匠家ゆえの素養があいまって、数々の傑作をうみだす。昭和32年、84歳で死去。



㊧ 千代鶴是秀と妻・加藤信

名 称	千代鶴是秀－用を極めて美に至る－
会 期	2015年4月29日(水・祝)～5月24日(日)
会 場	竹中大工道具館(神戸市中央区熊内町7-5-1)
主 催	公益財団法人 竹中大工道具館
共 催	木工具温故会、全国削ろう会神戸大会実行委員会
協 力	朝倉彫塑館、株式会社木屋、公益財団法人白鹿記念酒造博物館、土田刃物店、西宮市

## 是秀、その傑作の数々



㉒ 突ノミ「天爵」(土田刃物店蔵)

晩年にうみだされた最高傑作「天爵」。史上初公開の展示品です。一見、複雑に見えるノミの形すべてが、使い方や研ぎ方を熟考した合理的な機能にもとづいています。用を極め、美に至った是秀の力量を余すところなく伝える本展の目玉展示です。



㉓ 刻印カンナ  
(土田刃物店蔵)



㉔ 切出小刀「香魚か秋魚か」  
(土田刃物店蔵)

是秀の自由自在な造形を伝えるのが「切出小刀」です。魚をモチーフにした切出小刀は、是秀の得意としたもの。狂歌をしたためた箱書も、是秀の遊び心を伝えます。



早世した長男・太郎と彫刻作品



㉕ 千代鶴太郎のカンナ「運寿」  
(土田刃物店蔵)

長男・太郎は27歳で自殺。「白梅の 咲くも春なり ちるも春」とは太郎がつくった鉋刃「運寿」に、失踪後、是秀が台をつけて詠んだ句。鍛冶を学びながら、西洋音楽や石膏彫刻といったモダン文化に憧れ、失踪した長男の死は、その後、著しく意匠化する是秀の作風に大きな影響を及ぼします。

## 多彩な文化人との交流



彫刻家・朝倉文夫



㊦ 玄能「為 朝倉先生 長運」(朝倉彫塑館蔵)

彫刻家・朝倉文夫も、千代鶴是秀の道具の愛用者でした。ノミや玄能、ヤスリなどの木彫道具だけでなく、趣味の植木道具や包丁など、生活全般の道具を是秀につくらせます。本展では、朝倉彫塑館所蔵の彫刻道具を展示し、大工にとどまらない、多彩な是秀の文化人との交流を紹介します。



笹部新太郎と桜



㊦ 切出小刀「一花費尽一生功」(西宮市笹部桜コレクション、白鹿記念酒造博物館)

桜博士として知られる笹部新太郎。彼もまた、桜の接木道具として、千代鶴是秀の切出小刀を愛用。展示品「一花に費し尽す、一生の功」は、詩僧六如が桜ばかり描いた画家・三熊思孝に寄せた詩の一句を刻み、是秀が笹部のために製作した切出小刀です。

### プレス関連の問い合わせ先

画像掲載については添付の申込書(FAX)にてお申し込みください。

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 竹中大工道具館

TEL:078-242-0216 FAX:078-241-4713

e-mail: korehide@dougukan.jp

展示の内容は変更になることがあります。最新情報はホームページでご確認ください。